



湯河原ロータリークラブ WEEKLY REPORT



2019年11月15日(金) 天気：晴れ
例会 第2787回 合唱：我らの生業

会長 平間 章弘
幹事 室伏 学

事務所：神奈川県足柄下郡湯河原町宮上 566 湯河原温泉観光協会内
TEL 0465(64)1234 FAX 0465(63)1716
例会場：ニューウェルシティ湯河原 静岡県熱海市泉 107
TEL 0465(63)3721 FAX 0465(63)6401
例会日：毎週金曜日 12:30～13:30

会長挨拶

11月はロータリー財団月間です。1964～65年度RI理事会と管理委員会は、毎年11月15日を含む1週間をロータリー財団週間とすることを決めました。

財団の奨学金事業及び人道的諸事情についての知識と理解を深め、財団の推進に役立つプログラムを実施する月間であります。

ロータリー財団歴史は1917年アーチ・C・クランフRI会長が「世界でよいことをするために」基金の設置を提案、この基金が1928年に「ロータリー財団」と名付けられ、国際ロータリー内の新しい組織となり、現在のロータリー財団となったのです。

1929年財団は補助金500ドルを国際障害児協会（ロータリアンのエドガー・F“ダディー”アレンが創設）に贈り、これが後に「イースター・シールズ」という米国の慈善団体となり、1947年ポール・ハリスが亡くなると、多くの人々から国際ロータリーに寄付が集まり、この寄付は「ポール・ハリス記念基金」となって、その後のロータリー財団の発展のため役立てられました。そしてその後幾多の財団プログラム変遷があり、1917年26ドル50セントの寄付から始まったロータリー財団は、現在100億ドル以上の寄付を受けるほど発達しました。これも偏に多くのロータリアンの支えによるものであり、今後共人道的分野や教育面の支援活動を続けていきたいと思います。

幹事報告

ガバナーより

- 国際ロータリー第2780地区ローターアクト第31回地区大会開催のご案内
大会ターゲット：「つなぐ」
日時：12月1日（日）13時～17時30分
会場：アイクロス湘南6階E会議室
登録料：2,000円
登録締切：11月15日（金）
連絡事項 なし

スマイルBOX

11/15～21

- 会員誕生日 望月博文君（11/13）
結婚記念日 高杉尚男君（11/12）
結婚記念日 望月博文君（11/12）
結婚記念日 土屋一弘君（11/17）
可児亜理様 本日は卓話にてお邪魔いたしました。お世話になります。
神谷一博君 本日は財団奨学生可児さん、平和フェロー委員の小田原北ロータリークラブ市川恵美子さん、湯河原ロータリークラブへようこそ、これからもよろしくお願ひ致します。
伊藤伸之君・高杉尚男君
高杉会員のおかげでガラケーからスマホに変更する事が出来ました。
渡辺久恭君 ロータリーソング間違いました。

出席報告	ゲスト 1名 ビジター 1名	会員 24名
	欠席 7名(免除者 1名)	前回の修正出席率 83.33%
	出席率 73.91%	前々回の修正出席率 86.96%

事前メイクアップ 4名

ゲスト ロータリー財団学友 阿児亜理様

卓話：神谷 一博君

1992-93 年度 R 財団国際親善奨学生 可児亜理様

「ロータリー財団学友としての喜び」

私は 1992-93 年のロータリー財団国際親善奨学生としてドイツのミュンヘン国立音楽大学にピアノを専攻として留学しておりました。帰国してからもう 20 年以上も経っているのですが、今、自分の人生の生きがいの一つといっても過言ではない“素敵な絆で結ばれたロータリーで出会った友”と一緒に活動をしており、その活動報告を皆様に聞いていただけたらと思い、今日のお話のテーマを、「ロータリー財団学友としての喜び」としました。

その素敵な友とは、お互い留学年も違いますが皆ミュンヘン音大卒業で、ロータリーの国際親善奨学生として、同じホストカウンセラーにお世話になった事がきっかけで出会ったピアニスト 3 人です。2011 年の夏、東日本大震災があった年のその夏にメンバーの一人から「ロータリー奨学生のメンバーで 8 手ピアノ連弾をやってみる気ある？」と、電話がかかってきました。

8 手ピアノ連弾とは、向かい合わせの 2 台のピアノに 2 人ずつ座り、4 人のピアニストが 8 手となって演奏をする連弾スタイルです。息を合わせるのは大変ですし、まだ珍しいユニットでもあります。私達はさっそく皆の家の中間点ということで、武蔵小杉駅に集合することになりました。忘れもしない今の発展を想像できない武蔵小杉の小さな喫茶店で最初のミーティングをして、グループ名は「アーティスパイアアンサンブル」と名づけました。このアーティスパイアアンサンブル結成の時に、活動の大事なモットーとして、私達はただピアニストとしてでなく、もとロータリー財団奨学生として、留学させていただいたことへの感謝の気持ちで活動をしていこう！楽しく演奏活動しながら、どんなに少しでも人道支援のためになることをしていこう！という事を話し合いました。結成から 8 年になりますが、それぞれ仕事を持ちながら、練習を重ね、何日間もかけてプログラムを作り上げ、2012 年の横浜公演を皮切りに横須賀公演、ドイツ公演と演奏活動をゆっくりと続けてきました。各々の公演での収益金は、今までもロータリーの学友会を通して、又 2014 年のドイツ公演では、アメリカの国際ロータリー本部とのマッチンググラントのシステムに参加させて頂けたお蔭で、寄付金が倍になり、100 万単位の寄付をすることができました。

この時は、東日本大震災で被災した宮城県雄勝地区に伝わる神楽に必要な和太鼓が津波で流されてしまい、子供たちが太鼓の代わりに古タイヤを叩いて練習している映像を見て、音楽家として楽器購入の支援ができたからお金を使っていただきました。

そのころからでしょうか・・・和太鼓というキーワードが頭の中に残っており、いつか雄勝の子供たちの和太鼓と私達の 2 台ピアノとのコラボレーションが叶ったら

嬉しいねとメンバー 4 人で話をしておりましたが、そもそもこの編成の楽曲が世の中に存在しません。夢をかなえるなら、作曲家に新たに作品を委嘱しなければいけないというところで、話が止まっていました。お金もかかりますから！

そこへ、神様からのご縁だと思うのですが、ある時ある出会いがありました。翌年の夏、ドイツとポーランドに演奏会の機会を頂き、私が渡欧した折の出来事です。ミュンヘンから演奏会のため、移動中のドイツの新幹線の中で、私は偶然にも和太鼓奏者と隣の席に予約席をとっていたのです。車両は、がらすきなのに、わざわざ隣の席に座るの？と T シャツ、G パン姿の若い青年が「初めてのドイツ語」と日本語で書かれた本を座席においたまま、席を立たなかったら、話しかけることもなかったでしょう。横顔を見ると、涼やかなイケメン青年で、少し迷いながらも私は話しかけました。

「日本の方ですか？」すると嬉しそうにその青年は会話ののってきました。なんと同じ音楽家どうし、彼もオランダでコンサートがあり、移動する最中だったのです。伺っているうちに和太鼓奏者で林英哲の愛弟子とわかり、偶然のご縁を感じながら、乗り換えるまで音楽談義、ドイツ談義をしてお互いの名前を名乗りあい、アドレスを交換して別れました。その後、月日がまた過ぎさり、転機が訪れました。アーティスパイアアンサンブルのメンバーの一人はご主人の転勤でドイツの本社に戻る事となり、私たちの活動はどうなるかなと思ったころ、これからドイツでまた演奏会ができるように一つは日本のメロデー、和のハーモニーの美しい曲を題材にして曲を書いてもらおうという事になりました。そこで候補に挙がったのが、宮木道雄作曲の「春の海」です。お琴や尺八が入った名曲ですが、これを題材にして雄勝の子供たちともいつか演奏できるように和太鼓の入った 8 手ピアノの作品にしようという事が決まりました。曲は委嘱され出来上がってきましたが、「ところで誰に太鼓をお願いするの？」とのメンバーの質問に「一人、電車で隣の席になった和太鼓奏者知ってるけど、ずっと連絡していないけど。。」

私達は、すぐその場で彼の名前をググってみました。すると立派になられて、大活躍している様子がわかりました。TAKUYA さんという名前でご活躍で、覚えていてくれるかメールをしてみると、「もちろん覚えてます。あの時に僕も共演してみたいと思ってたんです。」と喜んで承諾のお返事をくれました。ドイツ在住のメンバーと日本在住の 3 人のスケジュールを合わせ、2018 年 3 月に予定された次のドイツ公演への準備が始まりました。和のモードから途中ジャズのように変化をする曲を前に、双方ともに難しいコラボレーションでしたが、練習を重ね、コブレンツ、ケルン公演ともに演奏会の終わりはスタンディングオーベーションでお客様に喜んでいただきました。